



高純度セレンを製造するいわき工場(福島県いわき市)

アジア物性材料

高純度セレン販売1割増

15年アジア向け需要伸長

レアメタル・回収精製のアジア物性材料(本社―横浜市緑区、水野光男社長)は、2015年の高純度セレンの販売量が14年比で約1割増加し約35トとなった。主にアジアを中心とした海外向けの需要が伸長している。



水野社長

高純度セレンは主に、乳がん検診用のX線マンモグラフィなどに使われる。同社はセレンのインゴット

(純度99.5-99.99%程度)を精製し、高純度セレン(純度99.9999%、6N)を製造する。本社工場に加えて13年1月にはいわき工場(福島県いわき市)が稼働を開始しており、製造能力は最大で月産15トに達する。「15年の販売量は前年比1-2割増を見込

んでいた。ほぼ想定範囲内」(水野社長)。マンモグラフィ向けは、市場の立ち上がり当初の想定より遅れていたが、直近では中国やインドなどを中心としたアジア地域での医療水準の向上に伴い、需要が増加しつつあるという。

同社の主力製品はインジウム、ガリウム、セレン、テルルなど。レアメタルの国際価格は14年から15年にかけて、主に中国での供給過剰や投機的な動きによる影響を受け、大幅に下落した。

「長期契約が中心だったので15年はまだ良かったが、リサイクルビジネスとしては市況の低迷が続くと厳しい(同)。そうした状況もあり、高付加価値製品である高純度セレンを収益の柱として考えている。」

# アジア物性材料

## いわきに新水処理設備

### 高純度セレン 湿式製錬可能に

レアメタル・回収精製のアジア物性材料（本社＝横浜市緑区、水野光男社長）はこのほど、乳がん検診用のX線マンモグラフィ向けの高純度セレンを製造するいわき工場（福島県いわき市）に新たに水処理設備を導入した。2015年12月に完成し、4月から本格稼働を予定している。これにより従来の乾式製錬だけでなく、湿式製錬にも対応可能になる。投資額は約8000万円。

現在いわき工場では、蒸留法による乾式製錬で高純度セレン（純度99・99999%、6N）を製造している。水処理設備の稼働により、水溶液中で行う湿

### 低品位品を効率処理

式製錬の導入が可能になる。これによって低品位品を効率的に処理できるといふ。原料の

品位や種類によって製造方法を効率よく組み合わせる。合わせていく。

力は本社工場と同じ月産5ト。両者合計では最大月産15トまで引き上げられる。従来は検

査・分析など一部の工程については本社工場で行う必要があったが、昨年後半に製造から出荷までをいわき工場で一貫化した。当初5人だった同拠点の従業員も8人まで増員。現在は建屋5棟を構えるが敷地にはまだ余裕があり、将来的に本社工場から製造機能を全面的に移管する計画も

ある。セレンは微量であれば人体の必須元素であ



いわき工場の排水設備

りつつあり、同社の販売量も徐々に増加しつつある。

るが、強い毒性も持つため厳しい規制が布かれている。「廃棄するにもコストがかかる。リサイクルシステムが必須の元素（水野社長）。X線マンモグラフィの市場は立ち上がりが遅れていたが、近年は中国や東南アジアでの医療水準の高ま